

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502199		
法人名	北海ケアサービス 株式会社		
事業所名	グループホーム 北海ハウス		
所在地	札幌市白石区北郷7条3丁目8番12号		
自己評価作成日	平成23年1月30日	評価結果市町村受理日	平成23年3月14日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170502199&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170502199&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年2月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念である「笑顔で 明るく やさしく」をモットーに利用者様と一緒に喜怒哀楽を共にしています。  
 利用者様の残存能力を発揮していただけるよう、一人ひとりの力に合わせた役割りや楽しみ事を見つけ、調理や片付け、掃除、洗濯、ゲームをしたり、散歩や買物に行ったりと常に利用者様と職員が助け合って生活をしています。  
 また、家庭的な雰囲気大切に、四季の飾りつけをし、旬の食材を使ったメニュー作りを心掛けています。食材は毎日、市場から買ったものを届けてもらい、安心して食べられる、美味しい新鮮なものを提供しています。  
 昨年、職員研修にも力を入れ、それぞれの職員の力に合わせた研修に参加できるよう、体制作りをしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営理念は簡潔な3項目(笑顔で、明るく、やさしく)を表題に掲げ、続けて詳しい説明を述べており、理解しやすくなっている。毎朝唱和するなどして職員への理解の浸透と実践への反映に努力している。  
 利用者の残存能力の発揮は理念にも掲げられており、食事関連の役割り分担、手芸、ゲーム、レクリエーションなどの楽しみ事は毎日行われており、外出、買い物、遠出の行事など、絶えず活動性の高い生活を目指している。食事は献立担当職員が利用者の希望を聞き、季節の新鮮な食材を取り入れ、各フロアごとに工夫して美味しく食べられるような工夫をしている。毎日30品目以上の食材を確保している。  
 職員研修には特に力を入れており、外部研修には各職員年間1回以上、多い人で4~5回は参加し、事業所内で研修報告を行っている。事業所の内部研修を隔月で、防災、薬、感染症、虐待など時宜に応じたテーマで実施している。さらにその合間に各ユニット独自のケーススタディーを中心にした勉強会が行われている。  
 鉄筋コンクリート3階建ての建物は、優れた断熱に加えて、床下を通して常時通気還流するエアサイクル方式を採用しており、年間を通して変わらない快適な環境を維持している。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関、居間などに掲示し、毎朝の申し送り時に復唱している。	「笑顔で、明るく、やさしく」という簡潔な標語を掲げ、わかりやすくして職員への浸透を図っている。毎朝申し送りの時に職員で唱和しているので、職員にはよく認知されている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月1回、近所の保育園児の訪問があり、七夕には子供達の訪問がある。ご近所の方とは日常的に挨拶を交わしている。	法人の代表が町内会の役員をしており、地域とのつながりは緊密で、夏祭りに参加し、子供みこしの休憩所を提供している。近くの保育園児が毎月来訪して折り紙、塗り絵などをしてともに過ごし、利用者を和ませている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成として、ホームヘルパーの実習生の受け入れをしている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、利用者様の様子や活動報告をして、意見交換やアドバイスを頂いている。	ほぼ2ヶ月ごとに定例で開催し、町内会役員、民生委員、地域包括支援センター職員、家族、利用者が参加して、事業所の運営状況や防災訓練などについて話し合われている。	参加者それぞれにとって運営推進会議が重要な意義を持つものであることの理解を深め、積極的な参加意欲が持たれることを期待したい。そのため地域の包括支援センター、行政による適切な支援を期待したい。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	札幌市の開催する「管理者」連絡会議に出席している。担当者には日頃から運営の相談、連絡をしている。	市の担当者とは、関連制度の解釈、適用基準などについて連絡を取り合い、相談している。区の担当者とは業務上の届け、報告などで交流している。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の様子観察、見守りを徹底し、安全に暮らせるよう配慮している。	表玄関は自動施錠構造になっているので、中からは出られるが外からは入れない。各フロアーの出入口は自由に通れるようになっている。出ようとする利用者は阻止せず、職員が付いて出る。職員に対しては虐待防止の研修を事業所内および外部研修で適切に教育している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加した職員がユニット会議で内容、感想を発表し、自分達のケアを振り返る機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修に一部の職員が参加しているが、完全に理解はできていないため、繰り返し、研修に参加できる体制作っていきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に事業所の対応可能な範囲や医療連携体制、リスクについて説明をし、同意いただいたから申し込みをしていただいている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設けている。ご家族の来訪時には、日常生活の様子や変化を伝えている。	家族の来訪時にはできるだけ意見を聞き出すように努力しており、ケアプラン見直しの時にはいろいろな意見や要望を聞き出している。問題を投げかけ提案することで、意見が言いやすくなる工夫をしている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、リーダー会議を実施し、職員からの意見や業務の改善点等、話し合いをしている。	各ユニットごとのリーダー、管理者、法人担当者によるリーダー会議の場で職員の意見を取り上げているが、それ以外にも随時、職員から直接多くの意見が寄せられており、忌憚のない意見が言える雰囲気ができている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境を良くし、職員が働きやすい環境作りを意識している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの力量に合わせた外部研修を受講できるよう、年間計画を立て、毎月のユニット会議で研修報告を発表し、報告書は職員全員が閲覧できるようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「民間事業者の質を高める会」有限責任中間法人全国介護事業者協議会に入会しており、交流会、勉強会に参加してもらい、ネットワーク作りや質の向上を目指している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず本人、家族との面談を行い、不安や要望を聞く時間を設けている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に必ず本人、家族との面談を行い、不安や要望を聞く時間を設け、様子を電話等で知らせている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いを確認しながら、何を優先すべきか相談しながら、柔軟に対応できるよう心掛けている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様それぞれに、できる事をお手伝いして頂き、助け合いながら生活していただいている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1度、広報誌を送り、生活状況を報告し、必要な時には、電話等で連絡、相談をしている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や面会など可能な限り対応している。家族との外出は自由にしてもらっている。	友人からの電話、来訪・面会などは頻繁にある。以前通っていた教会から手紙が来ることもある。墓参りや馴染みの美容院利用などは家族が同行して自由に行われている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わりが持てるよう、座席の位置等に配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、今までの生活状況や注意が必要な点について情報提供をしている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、さりげなく意向を聞くようになっている。意思表示のできない方は、表情等で把握するよう心掛けている。	職員皆が常日頃注意を払って、利用者の言葉だけではなく、表情、感情表現などを観察し、多くの事例を集めて職員間で検討し、意向の分析・把握に努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族から聞き取りをし、日々の暮らしの中でも情報収集を続けている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを把握できるよう、細かく記録に残している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様との関わりの中で、思いや要望を汲み取り、毎月の会議でカンファレンスを行い、随時、見直しを行っている。	本人の意向は担当職員が汲み取り、あるいは直接聞き、家族は来訪の時に意向を聞き、診療情報・看護情報はそれぞれの記録に基づき、担当職員、計画作成担当者、管理者のモニタリングを基に計画原案を作成し、職員の会議にかけて決定している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の会議記録に日々の様子、食事・水分量、排泄等を記録し、変更事項や重要な事は連絡ノートを使って共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買物や急な受診等、本人や家族の状況に応じて柔軟に対応している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の中で地域包括支援センターの職員、民生委員、町内会の方と意見交換をしている。昨年は町内会の方に参加していただき、避難訓練を実施しました。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関の他、本人、家族の希望の医療機関の受診も家族と協力して行っている。	入居の際にかかりつけ医の希望を確認するが、多くは事業所の協力医に移行しているため、この部分については医師との十分な疎通ができています。他のかかりつけ医の場合も医師の往診があるので、連携に齟齬はない。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、日常的な健康管理や利用者の状態に変化があれば、速やかに連絡、相談をして、助言、対応をしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関、家族と情報交換をし、話し合いをしている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所で対応可能な範囲を説明し、理解を得ている。日頃からご家族との関係を大切に、状況に変化があった場合は、話し合いをしている。	入居の際に利用者および家族と重度化した場合の対応方針について同意書を交わして確認している。本人・家族の希望があれば看取りにも応じたい意向ではあるが、現在の職員体制では実際上困難であり、また医療機関との連携も緊密なので、医師の判断により入院への移行を中心に考えている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、蘇生術の研修を実施し、対応できるようにしている。夜間の緊急時対応についてはマニュアルを整備している。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回、利用者様とともに避難訓練を行っている。緊急連絡先を見える所に大きく貼り、町内会の方にも協力していただいている。	年2回、消防署の指導・立会いの下に、昼と夜間を想定した、通報、初期消火、避難の訓練、および救急救命訓練を行っている。町内会からも参加者が来る。スプリンクラーはすでに設置されている。	火災の他に地震、水害についても危険状況を確認し、必要な備えや訓練を検討するよう期待したい。また年2回の定例訓練の他にユニットごとの独自訓練を考慮中とのことなので、その実現を期待したい。
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った言葉かけ、対応をし、都度、検討している。	名前は「さん」付けを基本として、本人の希望でニックネームで呼ぶ時は家族に了解を得ている。利用者の人格を尊重して話は拒否しないで最後まで聞くようにし、言葉遣いや各利用者の好みの話し方にも配慮している。個人情報にはユニットごとに適切に保管されている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意思を確認し、尊重した対応を心掛けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活パターンを把握し、その日の体調や様子観察しながら、柔軟な対応を心掛けている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	鏡を見て頂きながら整髪介助を行ったり、本人の希望に合わせて、カットや毛染めをしてもらえるよう、訪問美容を利用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には利用者の好みや旬の物を取り入れ、楽しく食事ができるよう心掛けている。	献立は利用者の好みを取り入れながらユニットごとに職員が作成し、旬の素材を活かして1日30品目を取り入れるように配慮している。利用者に応じて下拵えや味付け、盛り付けや後片付けなどを職員と一緒にやり、会話をしながら楽しく食事をともにしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日30品目を摂れるよう、バランスのとれた献立作りを心がけている。こまめな水分摂取を心がけ、個々に応じて、好みの飲み物やゼリー、プリンを提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアが難しい方は、食後に水分摂取やうがいをして頂き、誤嚥予防に努めている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、間隔や表情を見て誘導している。	排泄記録でパターンを把握したり、行動を観察してトイレ誘導を行い、日中は可能な限り布パンツを利用してトイレでの排泄を支援している。排泄失敗のパターンを把握して声かけすることで、本人が排泄を意識するようになり失禁が少なくなるなど改善した事例もある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操の時間の他、個別の運動や散歩、遊びの中で体を動かす機会を大切にしている。飲み物も乳酸菌飲料を摂れる様配慮している。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	可能な限り、その日の希望や体調を確認して入っ ていただいている。	入浴は毎日午後に行い、利用者の希望を聞きながら週2回以上入浴できるように支援している。本人の希望でほぼ毎日入浴する利用者もいる。入浴剤などで気分転換したり、本人の意志や思いに配慮した声かけをして、スムーズに入浴できるように工夫している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活のペースを把握し、体調や表情、希望を聞きながら対応している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能、副作用の説明をファイルし、いつでも確認できるようにしている。服薬時は誤薬等ないように、日付、名前等を声に出して確認し、きちんと服薬できているか確認をしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる事やできそうな事を頼み、必ず職員と一緒にするようにして、感謝の言葉を伝えている。午後から遊びの時間を設け、一緒に楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>外食や花見、動物園、近所の散歩等、気分転換を大切にし、季節を感じる事ができるよう、ご家族に協力して頂きながら、外出の機会を作っている。</p>	<p>冬季以外は毎日数人ずつ散歩に出かけたり、買い物などで各利用者が週2回程外出できるように支援している。夏季は毎日屋上で植木に水やりをしたり、ベンチで外気浴をする利用者もいる。開拓の村や百合が原公園などへの外出や屋上で花火大会見学、バーベキューなど日常的な外出支援を行っている。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>基本は事務所で管理しているが、本人、家族と相談して、お金を持っている方もいる。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話はご本人のかけたい時に自由にかけていただいている。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>フロアの家具の配置は利用者様が混乱しないよう配慮し、季節を感じる飾りつけを心掛けている。</p>	<p>玄関や居間には桃の花やおひな様を飾り、季節感が感じられるように工夫されている。大きな出窓の台には、ユニットごとに観葉植物や縫いぐるみなどを飾り、家庭的な温かな雰囲気が感じられる。トイレなどの表示は、各ユニットの利用者に合わせて分かりやすいように工夫されている。共有空間にも、各利用者が落ち着いて過ごせる場所が確保されている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>それぞれの落ち着く場所を見つけ、利用者様のくつろぎの時間を大切にしている。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>今まで使っていた馴染みの家具や思い出の品を持ってきて頂き、居心地の良い居室作りを心掛けている。</p>	<p>居室内は安全面に配慮しながら、本人の意向に沿って仏壇や使い慣れた筆筒、鏡台などを使いやすいように配置して、各利用者が居心地よく過ごせるように工夫されている。好きな色で統一したり、自分の作品を壁に飾るなど、個性的で生活感のある居室作りが行われている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人ひとりの力に合わせて、できる事をして頂き、状況が変わった時は、都度話し合いをしている。</p>		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502199		
法人名	北海ケアサービス 株式会社		
事業所名	グループホーム 北海ハウス		
所在地	札幌市白石区北郷7条3丁目8番12号		
自己評価作成日	平成23年1月30日	評価結果市町村受理日	平成23年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「さくらユニット」に同じ
--------------

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170502199&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170502199&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年2月16日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔で 明るく やさしく」という運営理念を玄関、更衣室等に貼り共有している。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、子供みこしやお祭り、七夕等の交流を図っている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成として、ホームヘルパーの実習生の受け入れをしている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、利用者様の様子や活動報告をして、意見交換やアドバイスを頂いている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	札幌市の開催する管理者連絡会議に出席している。担当者には日頃から運営の相談、連絡をしている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	平成15年開設のグループホームで現在まで身体拘束は行っていない。ユニット玄関は施錠していない。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット会議で虐待防止について勉強し、自分がされた場合どう感じるか等、話し合いをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>外部の研修に一部の職員が参加しているが、完全に理解はできていないため、繰り返し、研修に参加できる体制作っていきたい。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約前に事業所の対応可能な範囲や医療連携体制、リスクについて説明をし、同意いただいたから申し込みをさせていただいている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に意見箱を設けると共に、日頃から利用者、家族の意見は丁寧に傾聴している。</p>		
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回、リーダー会議を実施し、職員からの意見や業務の改善点等、話し合いをしている。</p>		
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職場環境を良くし、職員が働きやすい環境作りを意識している。</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員一人ひとりの力量に合わせた外部研修を受講できるよう、年間計画を立て、毎月のユニット会議で研修報告を発表し、報告書は職員全員が閲覧できるようにしている。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>「民間事業者の質を高める会」有限責任中間法人全国介護事業者協議会に入会しており、交流会、勉強会に参加してもらい、ネットワーク作りや質の向上を目指している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、不安や要望を聞き、安心して生活していただける関係づくり、環境づくりに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	何度も面談を行い、思いや要望を聞き、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学時に生活の状況や利用中のサービス内容等を聞き、どのようなサービスが必要か考え、その方にあった支援を受けられるよう対応している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	喜怒哀楽を共有し、個々に大切な関係を築いている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切に、共に生活を支援している。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や面会、家族との外出は自由にしてもらっている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞いたり、相談に乗ったり、利用者同士の関係がうまくいくよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、今までの生活状況や注意が必要な点について情報提供をしている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画作成時、利用者及び家族の意向を伺い、目標達成できるよう支援している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族から聞き取りをし、生活歴を把握して馴染みの関係を築けるよう配慮している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムの把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時、利用者及び家族の意向を伺い、目標達成できるよう支援している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を細かく記録し、情報共有を徹底している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに対応し、柔軟な支援に取り組んでいる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々の力を発揮できるよう支援している。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院受診時や訪問診療時に本人の訴え、家族の意向を伝え、適切な医療を受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、日常的な健康管理や利用者の状態に変化があれば、速やかに連絡、相談をして、助言、対応をしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族、病院関係者と情報交換を行い、早期退院を目指している。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所に対処可能な範囲を説明し、理解を得ている。状態の変化が生じた場合は、その都度話し合いを設けている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、蘇生術の研修を実施し、対応できるようにしている。夜間の緊急時対応についてはマニュアルを整備している。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回、利用者様とともに避難訓練を行っている。緊急連絡先を見える所に大きく貼り、町内会の方にも協力していただいている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、尊厳と権利を守った対応をしている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や好みを把握し、意思表示できるよう、声かけを工夫している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の望んでいるペースに合わせ、その日に希望にそって支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みに応じて、その人らしい身だしなみを支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を相談し、一緒に準備、食事、片付けを行っている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日30品目を摂れるよう心がけ、水分摂取は個々に応じて、好みの物を用意している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前後、うがい、口腔ケアを促している。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、できるだけトイレで排泄できるように支援している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた工夫をし、予防対応をしている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間の決まりはなく、個々の希望やタイミングに合わせて入浴している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンに応じ、安心して休息できるように支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各職員が薬について理解し、症状、変化の確認に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合った力を活かし、役割りを持ち、張り合いのある生活ができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に合わせて、ご家族にも協力して頂き、外出支援をしている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の希望や力に応じて、支払い等の場面がある時には、使えるよう支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の有する力に応じて、年賀状や電話等、交流できるよう支援している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の装飾をし、花や植木を飾り、家庭的な雰囲気作りに努めている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーや廊下等にソファ、椅子を置き、一人ひとりの居場所作りをしている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた日用品や生活感のある品を持ってきて頂き、居心地の良い居室になる様工夫している。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の力を見極め、安心、安全に生活できるような環境を整えている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム北海ハウス

作成日 平成 23年 3月 8日

市町村受理日 平成 23年 3月 14日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	地域の方や家族、職員に営推進会議の意義が理解されていない。	職員一人ひとりが運営推進会議の意義を理解し、日々のケアや取り組みについて職員から報告できるようになり、運営推進会議での意見を取り入れ、自主的に改善に取り組むことが出来るようになる。	運営推進会議へ職員も参加し、活動報告や取り組みについての報告をし、自主的な振り返り、話し合いの機会をつくる。	1年
2	35	火災以外の地震、水害についての訓練の取り組み	定期的に避難場所や非常用の備蓄物品の確認、補充をしていく。	水害、地震の対策や水、食料などの備蓄品についての話し合いの機会をつくる。	1年
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。